

## 【教員による地域貢献・研究活動】

### <「かせい森の産後ケアサロン」の産後ケア事業>

本学附置施設として2019（令和元）年度に開設された「かせい森の産後ケアサロン」では、母性看護学・助産学領域の教員が、助産師とともに産後1年未満の母子にデイサービス（育児相談、乳房ケア、授乳指導、沐浴等）を提供しています。また、ベビーマッサージなどの母子とその家族が参加できるイベントも開催し、好評を得ています。看護学科の実習施設としても活用しています。

### <学科シンポジウム>

狭山緑苑祭の一環として学科シンポジウムを開催し、看護の魅力や健康について情報発信しています。

#### 学科シンポジウム開催状況

回	開催年度	狭山緑苑祭		学科シンポジウム		
		開催日時	開催日時	テーマ	司会	講師・シンポジスト
第1回	2014 (平成26)	10月26日(日) 13:00~16:30	10月26日(日) 10:00~11:30	未来を拓く看護の力 ~これからの看護を 語り合おう~	今留忍	①阿部淳子(埼玉県助産師会 所沢地区長 助産師) ②本橋千恵美(埼玉県狭山保健所 副所長 保健師) ③若林福美(武蔵野赤十字病院 看護部長 看護師)
第2回	2015 (平成27)	10月25日(日) 10:00~16:30	10月25日(日) 10:00~12:00	社会で活躍する女性から 生き方を学ぶ ~女性の活躍する職業~	立石和子 亀山直子	基調講演:おたわ史絵(内科医、作家) シンポジスト:①逢坂麗(防衛省航空幕僚監部 パイロット) ②小澤麻美(慶応義塾大学看護学部看護学科 基礎看護学助教、元キャンペンアデント)
第3回	2016 (平成28)	10月23日(日) 10:00~17:30	10月23日(日) 9:30~11:00	女性のライフステージに おける健康支援	大澤栄	①鈴木幹子(本学看護学科 母性看護学・助産学領域教授)「女性のライフステージと健康」 ②西巻佳子(武蔵野赤十字病院 乳がん看護認定看護師)「乳がんとう付き合い生活していくか」 ③原川安喜子(はらかわ助産院院長 助産師)「更年期と上手に付き合っていくには」
第4回	2017 (平成29)	10月29日(土) 10:00~15:30	11月18日(土) 11:00~12:30	視覚・聴覚障がい者と 補助犬(盲導犬・聴導犬) の日常生活を知ろう	鳴海喜代子	①公益財団法人日本盲導犬協会 ②盲導犬ユーザー ③一般社団法人日本聴導犬推進協会 ④聴導犬ユーザー
第5回	2018 (平成30)	10月28日(日) 10:00~16:30	10月28日(日) 10:15~11:45	その人らしく「生活する」を 総合的に支援する看護の 創造~病気を抱えて生活 する人を支援する看護とは	伊関敏男	①柳屋圭子(戸田市社会福祉事業団 健康福祉の社 地域支援課サービス) ②中野瑞枝(ライフプランニングセンター 模擬患者ボランティア) ③本学看護学科学生
第6回	2019 (平成31・ 令和元)	10月27日(日) 10:00~16:00	10月27日(日) 13:00~15:00	今日から災害に備えよう ~福島・相馬での 支援活動から考える~	伊関敏男	基調講演:米倉一磨(NPO相双に新しい、精神科医療保健福祉システムをつくる会/相馬 広域こころのケアセンターセンター長)「災害看護と心のケア~福島『なごみ』の挑戦~」 シンポジスト①渡辺道雄(狭山市市民部危機管理課長) ②滋野界(日本赤十字看護大学大学院 共同災害看護学専攻:DNGL大学院生) ③齋藤麻子(本学看護学科 精神看護学領域講師)
第7回	2020 (令和2)	10月25日(日) 10:00~16:00 (オンライン)				コロナ禍のため開催せず
第8回	2021 (令和3)	10月24日(日) 10:00~16:00 (オンライン)	10月23日(土) 13:00~14:30 (オンライン)	こころのセルフケア ~"マインドフルネス"を 体験してみよう!~	安達祐子	①瀧田結香(本学看護学科 成人看護学領域講師)「マインドフルネスとは何か?どんな効果があるのか?どんな領域で行われているのか?」 ②佐藤寧子(慶應義塾大学SFC研究所 上席所員/元国立病院機構東京医療センター リエゾン精神看護専門看護師)「医療・看護におけるマインドフルネスの実践」 ③朴順禮(慶應義塾大学看護医療学部 講師)「マインドフルネスの実践ワーク」
第9回	2022 (令和4)	10月23日(日) 10:00~16:00	10月22日(土) 10:30~12:00 (オンライン)	母子の自律を支える 地域の子育て力 ~お母さんと赤ちゃんが 笑顔で過ごせるために~	杉田理恵子	①澁木弥生(所沢市子育て世代包括支援センターからがも 助産師)「地域の子育てを支援する助産師の仕事」 ②阿部淳子(開業助産師 助産院院長)「地域で寄り添う助産師たち~開業助産師の今」 ③城戸亜矢子(かせい森のクリニック産後ケアサロン 助産師)「地域と家庭の間を支える産後ケア」
第10回	2023 (令和5)	10月22日(日) 10:00~16:00	10月21日(土) 10:30~12:00	忍者から学ぶ健康の秘訣	藤井かし子	①小森照久(三重大学 名誉教授 精神科医師)「忍者呼吸・印によるストレス・不安の緩和」 ②瀧元誠樹(札幌大学地域共創学群スポーツ文化専攻 教授)「健康とは何か?忍者の叡知から問い直す」 ③古市卓也(羽衣国際大学人間生活学部食物栄養学科 教授)「忍者の食と栄養」 ④田村智則(福島県二本松市復興住宅自治会長)「高齢者サロンで実施している忍者体操」

### <地域住民の学習>

本学では、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々に対して、さまざまな学習機会を提供しています。看護学科教員は、専門性を活かして講師を務めています。

#### ● 子ども大学さやま・いるま

入間市・狭山市在住の小学4~6年生に、楽しく看護を学んでもらっています。

- ・2014（平成26）年度「体から聴こえるこの音は何か? / 手はきれいかな?」今留忍・安達祐子・谷岸悦子・長島文子

- ・ 2015（平成27）年度「看護師の仕事体験しよう！」谷岸悦子・今留忍・安達祐子・長島文子・横森久美子・鈴木幹子・西田陽子・玄番千恵巳
- ・ 2019（令和元）年度「防災カフェ～防災についての正しい知識を『防災カルタ』と心肺蘇生法体験で楽しく学ぼう！！～」齋藤正子
- ・ 2022（令和4）年度「看護のお仕事、学んでみよう！～赤ちゃんの身体の音を知ろう&お世話の体験～」岩田みどり・藤田藍津子

## ● ひらめき☆ときめきサイエンス

大学で行っている最先端の科研費の研究成果について、小・中・高校生の子どもたちが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

- ・ 2015（平成27）年度「看護師のキャリアを發揮する場面～災害時、緊急場面での看護の役割を体験してみよう～」立石和子・谷岸悦子・齋藤麻子 他
- ・ 2016（平成28）年度「看護師を体験してみよう！～手術を受けた患者さんへの看護や災害時の看護」立石和子・谷岸悦子・齋藤麻子 他
- ・ 2017（平成29）年度「ナースを体験～手術後と子どもの看護をする看護師になってみよう！」立石和子・藤田藍津子

## ● 公開講座

本学狭山キャンパスにある地域連携推進センターは、地域とともに「生涯学習社会」を目指し、「地域課題解決に向けた連携・協力関係の構築」を目的に、公開講座を開催しています。看護学科教員は、公開講座の講師として地域の方々の学び直しを支援しています。

- ・ 2015（平成27）年度「看護師資格を持っているあなたのために～潜在看護師さんの再就職支援セミナー」今留忍、安達祐子、谷岸悦子、田原美香、齋藤正子
- ・ 2021、2022（令和3、4）年度  
「まさかの災害！？こころの健康を保つには」齋藤麻子  
「コロナ禍でのイライラや憂鬱解消のために～日常生活でできるマインドフルネスで元気になろう～」瀧田結香
- ・ 2023（令和5）年度「こころとからだにアプローチ!!助産師による大人のためのペリネケアレッスン～骨盤底筋の使い方をマスターしてより美しくより健康に～」五十嵐由依子

## <看護職の継続教育>

実習施設等の看護職を対象に、実践や研究に関する指導・助言を行っています。

- 埼玉県保健所や市町村保健師に対する研修の講師、入間市健康福祉センターが行う地域診断に対する支援（2014年度～現在）：山口佳子
- 国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護師に対する研究・学会発表の指導・助言（2017年度～現在）：太田美帆
- 市立青梅総合医療センター（旧 青梅市立総合病院）
  - ・ 看護師に対する災害看護研修会の講師（2019年度）：齋藤麻子
  - ・ 看護師に対する研究指導・助言（2021年度～現在）：藤田藍津子、瀧田結香、杉田理恵子
- 所沢ロイヤル病院 看護師に対する研究・学会発表指導・助言（2022年～現在）：根岸貴子

## <新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所支援>

本学に隣接する埼玉県狭山保健所や東京都多摩府中保健所において、新型コロナウイルス感染症で自宅療養している方の健康観察などを行いました（2020年12月～2023年1月）：山口佳子、一柳由紀子、松浦早希

## <その他の地域貢献>

武蔵野赤十字病院の臨床研究倫理審査委員会の委員、埼玉県母子保健運営協議会をはじめとする自治体の各種委員、狭山市の精神障がい者福祉の拠点として活動している社会福祉法人こぶし福祉会の評議員、学会の代議員や委員、各種研修の講師、自治体主催の市民向け講座の講師、専門性を活かしたボランティア活動など、さまざまな形で地域に貢献しています。

## <東京家政大学 研究ブランディング事業／総合研究プロジェクト>

「ひとの生（Life）を支える学」を教育・研究する総合大学」という本学の特色を明確化するため、全学的な「研究ブランディング事業」が2018（平成30）年度に開始され、2019（平成31）年度からは「総合研究プロジェクト」として継続しています。看護学科教員の藤田藍津子・玄番千恵巳・今留忍は、人文学部教育福祉学科 田中恵美子准教授とともに2018～2020（平成30～令和2）年度に「子育て世代の健康な生を支える学～親になるプロセスを支える学の構築～」に取り組み、狭山市・入間市の子育て世代を対象に、子育てへの思いと子育て支援に関する本学への期待を明らかにしました。

## <東京家政大学 女性未来研究所>

女性未来研究所は、建学の精神である「自主自律」、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」と長年にわたる女子教育の伝統に基づく本学固有の女性研究を行うとともに、その成果を社会に広く公表し還元することで、多様性を尊重する共生社会の実現と男女共同参画社会における女性の活躍を支援することを目的としています。看護学科の教員は「女性未来研究所」の兼任研究員として、以下の研究を行いました。

- ・2014～2016（平成26～28）年度「男女共同参画で行う地域防災・減災」齋藤正子・小櫃智子（子ども支援学科）
- ・2017～2019（平成29～31）年度「生涯を通じた女性の健康づくり～未就学児の母親に焦点をあてて～」大久保麻矢・米澤純子・井上直子
- ・2021～2022（令和3～4）年度「大学を拠点として取り組む子育て支援～前向き子育てプログラムの有効性の検証～」藤田藍津子・玄番千恵巳・田中恵美子（教育福祉学科）・今留忍

## <埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)>

埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）とは、埼玉県の東武東上線沿線および西武線沿線の「大学」「自治体」「企業」が連携するプラットフォームです。「地元で生まれ、地元で育ち、地元で生きていく若い世代への支援」というビジョンのもと、2018（平成30）年に発足しました。看護学科教員の大野順子・山口佳子・北澤健文・一柳由紀子は、TJUPの一環として、2018～2022（平成30～令和4）年度に駿河台大学との共同研究「女性の飲酒と健康について」に取り組み、女性の飲酒について調査を行い実態と課題を明らかにした上で普及啓発用リーフレットを作成し、入間市、狭山市、所沢市の住民に配布しました。

## <教育方法・教材の開発研究>

前述したように、東京家政大学「教育開発推進事業（学長裁量経費）」を積極的に取得し、教育方法や教材の研究・開発を行っています。また、文部科学省大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」や本学ヒューマンライフ支援機構のプロジェクト研究助成費を獲得し、デジタルトランスフォーメーション導入型看護教育の研究に取り組んでいます。

## <学会表彰>

### ● 成人看護学領域 平田浩三(2018年度)

#### Albert Nelson Marquis Lifetime Achievement Award を受賞

アルバート・ネルソン・マーキス生涯功労賞は、業界や専門分野における功績や卓越性が実証された人物に与えられる賞です。世界で最も権威ある人名録とされているMarquis Who's Who in the Worldに連続掲載された人物のうち、5%未満しか獲得できない、たいへん名誉ある賞です。平田教授は、動脈硬化に関する長年の研究実績を評価され、2018年に受賞しました。

### ● 公衆衛生看護学領域 山口佳子(2018年度)

#### 「県・保健所・大学の協働による保健所実習指導者研修会」が「日本公衆衛生看護学会 学術奨励賞(教育・実践部門)」を受賞

保健師課程選択制導入に伴う新たな保健所実習の開始に向け、埼玉県保健所保健師を対象に実態調査を行い、分析結果に基づき現場のニーズに即した実践的な実習指導者研修会を3年間にわたって開催しました。埼玉県の本庁と保健所の保健師4名、山口教授を含む県内看護系大学教員3名が協働して受賞しました。

### ● 成人看護学領域 瀧田結香(2020年度)

#### 「肺動脈性肺高血圧症患者における身体活動とその影響要因」が日本循環器看護学会「奨励論文賞」を受賞

成人看護学領域の瀧田講師が、研究論文「肺動脈性肺高血圧症患者における身体活動とその影響要因」で、2020年度日本循環器看護学会「奨励論文賞」を受賞しました。

### ● 小児看護学領域 倉石佳織(2023年度)

#### 「コーエン症候群の患者・家族と研究者のコラボレーションによる家族会支援の実際」が日本家族看護学会「家族看護グッドプラクティス賞」を受賞

倉石助教は家族会と共に、コーエン症候群に対する社会的認知の向上や家族同士のつながりの維持・促進に貢献してきました。この取り組みが高く評価され、家族看護の実装や普及にかかる顕著な実践活動を行っている団体や個人を顕彰する「家族看護グッドプラクティス賞」に選ばれました。

## <日本学術振興会 科学研究費助成事業(科研費)>

科研費に採択され、看護学科教員が研究代表者として本学在職中に取り組んだ研究課題は以下の通りです。また、研究分担者として実施した研究課題は31件ありました。

### 看護学科教員 科学研究費助成事業 採択一覧（研究代表者）

氏名	研究種目	研究課題名	研究期間	
			開始	終了
立石 和子	基盤研究(C)	看護実践能力促進のためのキャリアプランニングに必要な教育の検証	2013	2016
鈴木 幹子	基盤研究(C)	父親としてのコンピテンシーを高めるための育児支援システムの構築	2013	2015
大久保 麻矢	若手研究(B)	発達障がい児の母親の口述的ライフヒストリー ～レジリエンスに着目して～	2013	2015
齋藤 正子	研究活動スタート支援	災害により長期の避難生活を余儀なくされる看護支援モデルの構築	2014	2015
谷岸 悦子	基盤研究(C)	汎用的能力を基盤とした災害看護実践力を育む看護基礎教育システム構築と検証	2015	2019
鈴木 幹子	基盤研究(C)	産後クライシス予防に向けて父親のコンピテンシー強化に着目した育児支援システム構築	2016	2020
根岸 貴子	基盤研究(C)	夫における認知症介護準備態勢の自己評価式尺度の開発	2016	2019
立石 和子	基盤研究(C)	看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	2017	2020
齋藤 正子	基盤研究(C)	避難を余儀なくされた療養者に対する災害時相互協力を用いた看護支援モデルの構築	2017	2020
瀧田 結香	挑戦的研究(萌芽)	マインドフルネスを基盤とした肺高血圧症患者のレジリエンス強化プログラムの開発	2017	2021
有澤 舞	若手研究(B)	周術期看護における視線動きの分析結果より患者観察のための教授方法の構築	2017	2020
藤田 藍津子	若手研究(B)	放課後等デイサービスの看護師役割に関する研究	2017	2021
大久保 麻矢	基盤研究(C)	発達障害児の父親の「診断」を軸とした人間関係の変化を探る ～母親の孤立との関係性～	2018	2021
霜越 多麻美	若手研究	組織学習に着目した地域組織活動支援ガイドの作成	2019	2022
植村 直子	若手研究	ケアパリティの視点による保健師のコミュニティグループ支援ガイドラインの開発	2020	2023
倉石 佳織	若手研究	コーエン症候群患者のPreventive Healthcare Modelの開発	2020	2023
瀧田 結香	基盤研究(B)	自己管理アプリを用いた肺高血圧症のマインドフルネス/セルフマネジメントプログラム	2021	2025
松江 なるえ	基盤研究(C)	報告行動に関するハイブリッド型教育プログラム開発	2021	2024
藤田 藍津子	基盤研究(C)	「放課後等デイサービス」の看護師支援システム開発と評価	2021	2023
藤井 かし子	基盤研究(C)	足・喉・口腔の状態に焦点を当てた健康管理によるフレイル対策の効果と検証	2023	2025

## <その他競争的研究費>

以上の他にも、厚生労働科学研究費補助金、学会の研究助成金などの研究費を獲得し、看護の教育や実践に役立つ研究に取り組んでいます。

### [研究支援プロジェクトチーム]

看護学科教員の研究活動を支援するため、2022（令和4）年度に看護学科として研究支援プロジェクトチームを発足させました。研究計画書作成や倫理審査受審に関する若手教員に対する個別支援、学科主催FD研修会の企画・実施などを行っています。